

種子粉
生産者の
皆さんへ

「枝梗が残っている」との クレームが増加しています

枝梗が残っていると

播種作業が良好に行えない。
枝梗を発芽種子と誤解される。

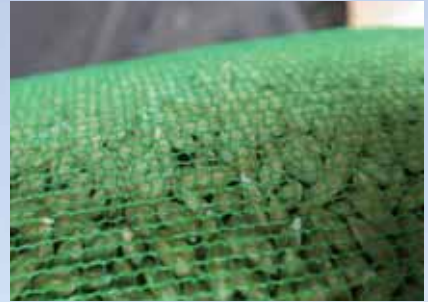
(枝梗が長い催芽粉が播種機に詰まることがあります。)



未消毒種子 (枝梗の混入状況)



未消毒種子 (枝梗の長いもの)



消毒種子 (ネット入り)
(ネットから出ている枝梗が発芽に見える)

種子は商品であり、クレームの無い 優良種子を生産しましょう

対策のポイント

- 適期刈取り → 刈取りの目安は、帯緑色粉率3%程度
- 雨上がりや朝露でぬれているときは刈取らず、乾くのを待ってから開始する。
- 必ず試し刈りを行い、枝梗等が無いことを確認する。
- 調製はていねいに行い、脱ぶ粒に注意しながら入念な脱芒を行う。
- 風選、比重選を組み合わせたていねいな選別を行う。

★種子粉の刈取適期は、帯緑色粉率で3%★

穂の下のほうに残っている **黄緑色の粉(帯緑色粉)** の割合を見て判断しましょう!!

黄緑色の粉
を見てほしい
まる～



© 栃木県 とちまるくん



穂の下のほうは
黄緑色

平均的な生育箇所の 5～6 本の穂をまとめて握
ってみる。下のほうでうっすらと黄緑色をした粉の
割合で判断する。3%が適期(不稔粉は含めない)

(参考:「安心イネつくり」P.82(農文協))



帯緑色粉率	3%
出穂後日数	46日

刈取適期

- その年の最初に刈取りした1タンク分又は3袋(100kg程度)は種子にしない。
- コンバインは種子専用コンバインを使用することが望ましい。また、コンバイン袋を使用する場合は種子専用とする。
- コンバインこき胴回転数は、稲用回転数の最低～標準の1割減で行い、必ず試し刈りを行い、割粉、脱ふ粒、枝梗等が無いことを確認する。
- 刈取り時期の判断は、一般栽培米に比べて遅らせる。(コシヒカリの場合は3～5日程度)
- 倒伏(なびきは倒伏と見なす)や成熟ムラのところは刈り分けをし、種子にはしない。
- 高水分での刈取りは発芽率が低下するので、水分は25%以下で刈取りし、刈取り後は速やかに乾燥する。

種子粉生産にあたっては、適期収穫等を遵守し、優良種子の生産に努めましょう!

優良種子生産のためのポイント

- 混種の発生を徹底的に防ぐため、一般米を含め1品種の作付けを原則とする。
- やむを得ず2品種を作付けする場合は、種子専用の作業機械を用意するなどの混種防止を徹底する。
- 前作は同一品種が原則である。

変種・異品種株、病害株等の除去

- 収穫まで、最低4回は実施する。(出来るだけ多く実施)
- 疑わしい株は、その株全体を株元から抜き取る。

収穫前の清掃点検

- 播種機、コンバイン、運搬コンテナ、乾燥・調製用機械等は種子専用が望ましい。
- コンバイン、乾燥機等収穫調製に使用する機材の清掃を徹底し、種苗事業者(JA)の確認を受ける。
- 種子を優先して収穫する。やむを得ず一般栽培米収穫後に種子を収穫する時には、同一品種であっても清掃を徹底し、種苗事業者(JA)の確認を受ける。